

や

やるぞ～

ま

まけないぞ～

が

がんばろうぜ～

た

楽しい学校になるように

もしもピアノが弾けたなら！ そして もしもピアノが止まってしまったら！！

前期の終業式で話したように、今年度も合唱音楽会はコンクール形式ではないため、白翔祭のように「三冠めざして」などの目標がない中、少しでもモチベーションを高めたいという思いから、『MIC賞』(Most Impressive Chorus)なる賞を設定しました。

音楽は優劣をつけるべきものでなく、楽しむべきものだという観点から純粹に一番心に残った合唱に“いいね！”を上げてください。

そして、合唱はクラスのみんなの『心をつなぐ』にする大切なチャンスのある場であるとも話をしました。

私が教員なりたての時の、あるエピソードを紹介します。

合唱コンクールで、私の1年生のクラスは『君をのせて』という合唱曲を歌いました。ピアノ伴奏者をやりたいという子が3人いたのですが、クラスのみんなで話し合った結果、他の場面でなかなか活躍の場をもらって機会がなかった子をあえて選びました。でも、その子は、3人の中では、ピアノ演奏の技術は一番未熟だったんですよ。

実際、練習中に何度もつまずいたり間違えたりして、中には不満を言う生徒も出てきたり、本人も何度も泣いたりしたりすることもあったのですが、何とかクラスのみんなでお互い励まし合って、満足いく手応えのある作品に仕上がって本番を迎えました。

ところが、ところがです。歌っている途中に、ピアノが止まったんですよ。最悪のタイミングでなく、すぐに持ち直して最後まで演奏してくれたのが不幸中の幸いでしたが、伴奏者の子は責任を感じて泣きじゃくるし、周りのたくさんの子が慰めたりして、本当にたいへんでした。

そして、結果発表。実は、ピアノが止まったのに、学年8クラスの最優秀賞をとったんです。先生方の代表10人くらいで審査にあたりましたが、審査委員長の校長先生からこんな言葉をいただきました。

「ピアノが止まったのに、誰一人動揺することなく何事もないように、逆に『気にするな。任しておけ。ピアノ頑張れよ』というクラスの雰囲気ひしひしと伝わってきた。感動した。まあ、練習の時から、クラス一丸ですごい頑張りだったからね。」と。各クラスの練習風景を、いつも小まめに見て回って声がけしてくれていた校長先生でした。

私が担任をしていたときの、合唱に臨むクラスの子ども達への“檄”は、いつも決まって次のようなものでした。最後に今日も……。

『歌は音符じゃねえ。歌はハートだ！歌は魂の叫びだぞ！！』